



ガールスカウト新潟県第1団 団委員長

野村 秀子

NOMURA HIDEKO

1955年 柏崎市出身

2023年 ガールスカウト新潟県第1団
団委員長として活動

ガールスカウト新潟県第1団は県内のガールスカウトでは最も歴史が古く、1948(昭和23)年に柏崎市内の寺院の日曜学校女子部が独立する形で発団した。翌年、日本連盟が誕生し正式に連盟に登録。これまでに延べ4900人以上が在籍した。

今年4月から7代目の団委員長を務めることになった野村秀子さんは、これまで40年以上活動に携わってきた。ガールスカウトのことを初めて知ったのは小学3年生の頃。担任でガールスカウトのリーダーだった長野先生に誘われて体験集会に参加。入会はしなかったがとても楽しかったことを覚えているという。

社会人となり、趣味で青少年ホームのサークル活動に参加していた際に、のちにガールスカウトの団委員長を務めた、渡辺郁さんに誘われ集会を手伝うようになった。日本連盟が主催する養成講習を受けてリーダーとなり、自らもガールスカウトとして入団。リーダーとして子どもたちと遊んだりゲームをしたり、ハイキングやキャンプをして過ごし、今も変わらず活動を支えている。

ガールスカウトは小中高生女子の活動と思われがちだが、実は野村さんのように大人になってから縁あって入団する人も多く、年齢も小学生から上は80代、90代というように、層も厚いのが第1団の特長でもある。現在、所属しているのは、柏崎市内や近隣市町村の小中高生の少女スカウト41名と成人スカウトの26名。月に3回、土曜の夜に集会を開き、災害時にも役立つロープワークや料理を学び、キャンプを実施。地域のマラソン大会のボランティアや募金活動にも参加するなど幅広く、自分たちでやるべきことを考えて活動を行っている。

キャンプではグループごとに自分たちでテントを張り、刃物で薪を作ったりマッチで火を点けたり、実生活ではやらないことも経験する。「テントの中で知らないお友達と24時間いるわけですからわがままを出せば集団生活はうまくいかない。人と対する難しさや楽しさを活動の中で学んだり体験したりすることの重要性を知ってもらいたい」と野村さんは話す。

ガールスカウトの活動は第1団の中だけに留まらず、スカウト同士が集まり交流する機会は県内、北関東6県、全国、海外へと続いている。「自分が望めば世界は大きく広がっていく」という。「75年前当時に女子教育の大切さを考え、団を立ち上げた意識の高い女性たちがこの活動を支えてくださった。その思いを受け継ぎ、途絶えることなく繋いでいきたい」と笑顔をみせた。



お問い合わせ

ガールスカウト新潟県第1団



Facebook